

## 本学教員執筆書籍の紹介

柿崎秀宏 編集 縦 296 × 横 212mm 181 ページ

### 小児泌尿器科手術

メジカルビュー社 2010年9月発行 定価 12,600 円

柿 崎 秀 宏

昨年秋に私が編集を手掛けた「新 Urologic Surgery シリーズ7：小児泌尿器科手術」（メジカルビュー社）が刊行されました。この誌面を借りて、書籍につき簡単に紹介させていただきます。

本書は、小児泌尿器科手術の重要な手技を網羅した図説テキストです。明瞭なイラストを駆使することで、小児泌尿器科手術のさまざまな手技がわかりやすく解説されています。小児泌尿器科では、腎、上部尿路、下部尿路、内外性器・生殖腺の先天異常に対する形成手術が多く、時に手術手技を理解することがやや困難なこともあります。本書を通読することにより、小児泌尿器科のさまざまな手術の重要な点を理解することができます。本書は、大きく6つのパートから構成されていて、I. 腎・上部尿路に対する手術、II. 尿管膀胱移行部・膀胱に対する手術、III. 尿道に対する手術、IV. 男子外陰部形成術、V. 女子外陰部形成術、VI. 精巣・陰囊内容に対する手術の順に記載されています。それぞれのパートにおいて、1～7つの手術が取り上げられ、全部で20種類の手術が解説されています。ページ総数は181ページに及び、執筆者総数は32名となっています。

小児泌尿器科は泌尿器科学における重要な領域のひとつですが、その一方で小児泌尿器科は泌尿器科と小

児外科との境界領域にあります。泌尿器科が小児の診療に力を入れていない大学病院では、小児外科医が小児泌尿器科手術を手がけることもあります。小児泌尿器科手術は、腎・尿路の解剖と生理、内外性器・生殖腺の発生と分化に関する十分な知識に裏打ちされた医師のもとで行われるべきであり、その意味において、小児泌尿器科手術は、やはり泌尿器科医が行うべき手術です。本書は、包茎や停留精巣に対する手術のような頻度の高い手術から、尿道下裂に対する形成術や性分化疾患に対する外陰形成術のような難易度の高い手術まで、小児泌尿器科手術の重要な疾患を取り上げており、これから小児泌尿器科手術を学ぼうとする医師にとっても、既に小児泌尿器科手術を相当数経験している医師にとっても、手術手技の習得と向上を可能にする図説テキストとして大いに役立つことを期待しています。また、本書では、腹腔鏡下腎盂形成術、経膀胱的腹腔鏡下尿管膀胱新吻合術などの低侵襲手術も取り上げていて、これらの新技术を学ぼうとする医師にとっても、有意義な解説書となることを確信しています。

いろいろな書籍が次から次へと登場する時代にあつては、ひとつの書籍が購読される寿命は長くありません。小児泌尿器科手術の解説書として、本書が末永く購読されることを願っています。

(旭川医科大学 腎泌尿器外科学講座)